

一番茶のみを摘採する場合に適した せん枝時期の検討



写真1 秋整枝前の状態 (2021年10月8日、各うねの月日はせん枝日を表す)

表1 一番茶後のせん枝時期が秋整枝および秋整枝後の樹冠に及ぼす影響

せん枝日	秋整枝枠摘み調査 (10/17) ^{z)}			秋整枝面調査 (12/6) ^{y)}		
	秋整枝量 (kg/10a)	整枝枝条数 (本/m ²)	枝条径 (mm)	切断枝条数 (本/m ²)	頂芽数 (本/m ²)	枝条数 (本/m ²)
6月18日	422	292	1.9±0.3	433	200	633
6月25日	281	267	1.8±0.4	267	142	408
7月2日	224	233	1.7±0.3	250	208	458
7月9日	130	142	1.8±0.4	333	225	558
7月16日	73	133	1.7±0.4	292	292	583

注1) 一番茶摘採日: 2021年4月20日、秋整枝日: 10月20日

z) せん枝位置から+6cmの高さに設置した20×20cm枠内の新梢を摘採し調査した(3か所/区)。

y) 20×20cm枠内における整枝枝と整枝面下0~2cmまでの頂芽数を計測した(3か所/区)。

荒茶価格の低迷等により、多くの茶園では二番茶を摘採せず一番茶のみを摘採するようになっていますが、一番茶摘採後に毎年同じ高さで整せん枝を行うことが収量・品質の低下を招いています。

そこで、当场では毎年同じ高さで一番茶を摘採しても収量・品質が低下しない枝条管理方法について検討しています。

一番茶摘採後の整せん枝時期を二番茶摘採時期の6月中旬から梅雨明け平年日(7/17)まで7日間隔で一番茶摘採面から7cmの深さでせん枝した場合の秋整枝時の生育

について調査しました(写真1)。

その結果、せん枝時期が早いと新芽の発生が早く新梢の生育期間も長くなるため、枝条径はほぼ同等でも新芽長が長く(データ省略)秋整枝量が多くなりました(表1)。また、秋整枝面については、せん枝時期が遅いと整枝時に刈刃に届かない新梢が多く頂芽数が多くなる傾向にありました。

今後は、来年の一番茶の収量や、せん枝の深さを毎年変更する体系が生育に与える影響について、継続して調査する予定です。(茶業試験場 松岡俊二 0889-32-1024)

高知県農業技術センターニュース 第107号 令和4年3月25日

編集発行 高知県農業技術センター 所長 松村 和彦

農業技術センター

〒783-0023

高知県南国市廿枝 1100

TEL (088) 863-4912

FAX (088) 863-4913

<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2012>

果樹試験場

〒780-8064

高知市朝倉丁 268

TEL (088) 844-1120

FAX (088) 840-3816

<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2013>

茶業試験場

〒781-1801

吾川郡仁淀川町森2792

TEL (0889) 32-1024

FAX (0889) 32-1152

<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2014>